

〔科目名〕 経済学基礎論 a (経営学科 1 年次、地域みらい学科 2 年次対象)	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基礎科目(必修科目)
〔担当者〕 森 統、Mori, Osamu、 國方 明、Kunikata, Akira	〔オフィス・アワー〕 時間: 詳細は授業中にアナウンスします。 場所: 詳細は授業中にアナウンスします。	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 経済学は、私たちの消費から生産、政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に密接に関係しています。本科目では、経済学がどのような学問かということ学びます。経済学は現実社会を理解し、その問題点の対処法を考える学問といえますが、その際、どのような視点で、どのような問題意識をもち、どのように論理を展開するのでしょうか。本講義では国内外で広く用いられる標準的な教科書に沿って、社会科学としての経済学の基本的な考え方を学びます。本講義はミクロ経済学パートとマクロ経済学パートで構成されます： (1) ミクロ経済学: 経済社会を構成する私たちが、何を、どれだけ購入するのか。そのためにどれだけ働き、生産を行うのか。そこに問題があるとなれば、どのように対処するのか。個々の消費者の行動と企業の行動、市場の効率性並びに市場の失敗と政府の役割について考えます。 (2) マクロ経済学: 失業や経済政策など、一国経済全体に関わる問題を理解するためには、個々の主体の行動だけでなく、経済全体を俯瞰する巨視的な視点も必要となります。そのために必要な考え方、知識を身につけます。 小テストは第 16 回目の講義時間中に実施する予定です(6 月上旬予定)。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 経済学基礎論は、経済学のすべての科目の基礎となります。経済学にはミクロ経済学、マクロ経済学、公共経済学、財政学、労働経済学、国際経済学、金融経済学など、さまざまな分野があり、それらの諸分野は 1 年生の秋学期以降に勉強します。本科目は、それぞれの分野がどのように関連しているのかを示すガイドラインとしての役割も果たします。本科目を通して、経済学の考え方に触れ、経済学に興味を持ってもらえればと思います。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標: 経済学の基礎的な知識を身につける テキストでは経済学の基礎的な考え方として、十大原理というものを設定しています。まず、この原理を理解することが最初の目標となります。 最終目標: 経済学的な視点から物事を考える力を身につける 新聞に出てくるようなさまざまな社会や経済の問題について、自分なりの問題意識で、経済学に則して考えることができるようになることが最終目標です。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 理解しにくさを訴える受講生も若干おりましたので、講義内容のより丁寧な説明と、より簡潔な説明のバランスを取るよう心掛けたいと思います。 また、過去、授業中騒がしいときがあったとの指摘もありましたので、授業環境にも十分注意を払いたしたいと思います。		
〔教科書〕 N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー入門経済学 第 3 版』東洋経済新報社、2019 年。		
〔指定図書〕 N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー経済学 I ミクロ編 第 4 版』東洋経済新報社、2019 年(新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。) N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー経済学 II マクロ編 第 4 版』東洋経済新報社、2019 年(新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。)。		
〔参考書〕 J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ入門経済学 第 4 版』東洋経済新報社、2012 年(新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。)。		

〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末定期試験および小テストの成績をあわせて総合的に評価します。	
〔評価の基準及びスケール〕 評価 得点比率 A 80%～100% B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 50%～60%未満 F 50%未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 経済学に限りませんが、物事を理解するためには、関連する知識を単に収集するだけでなく、その土台となる基本的な考え方を身につけることも大切です。授業で説明することをただ暗記するのではなく、なぜそうなるのか、論理展開の経緯を大切にしてください。自分で考え、理解してはじめて、知識が自分のものとなり、財産となります。 講義は以下のスケジュールに沿って進めますが、授業の理解度等によっては、スケジュールを変更することもあります。	
〔実務経歴〕 森: 実務経験はありません。 國方: 公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を織り込みながら、経済学の基礎的理論を学ぶ授業です。	
授業スケジュール	
	マイクロパート
第1回	テーマ(何を学ぶか): 人々はどのように意思決定するのか 内 容: 経済学の十大原理(ミクロ的視点) 教科書 1章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人々はどのように影響しあうのか、経済は全体としてどのように動いているのか 内 容: 経済学の十大原理(市場の機能と政府の役割、マクロ的視点) 教科書 1章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 経済学者はどのように考えるのか 内 容: 科学としての経済学、経済モデル、生産可能性曲線 教科書 2章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 経済学者はグラフをどのように使うのか 内 容: グラフの種類、座標系のなかの曲線、傾き、因果関係 教科書 2章補論
第5回	テーマ(何を学ぶか): 交易(取引)はすべての人々をより豊かにする(1) 内 容: 生産可能性、特化と交易、絶対優位、機会費用、比較優位 教科書 3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 交易(取引)はすべての人々をより豊かにする(2) 内 容: 比較優位の応用例、完全特化と不完全特化 教科書 3章

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):完全競争市場における買い手の行動 内 容: 市場、需要曲線、個人の需要と市場の需要、需要曲線のシフト</p> <p>教科書 4章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):完全競争市場における売り手の行動・需要と供給を組み合わせる 内 容:供給曲線、個人の供給と市場の供給、供給曲線のシフト、需要・供給のシフトと均衡の変化</p> <p>教科書 4章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):価格規制が市場に及ぼす影響 内 容:価格の上限・下限は市場の成果にどのような影響を及ぼすか</p> <p>教科書 5章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):課税が市場に及ぼす影響 内 容:売り手と買い手に対する課税は市場の成果にどのような影響を及ぼすか</p> <p>教科書 5章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):価格変化に対して需要量(供給量)はどれだけ反応するだろうか 内 容: 需要(供給)の価格弾力性とその決定要因、需要(供給)の価格弾力性の計算</p> <p>教科書 5章付論</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):買い手や売り手が市場に参加することで得られる便益 内 容:支払許容額、需要曲線と消費者余剰の測定、費用と受取許容額、供給曲線と生産者余剰の測定</p> <p>教科書 6章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):税は効率・公平の観点からどう評価されるか 内 容: 税と効率、税と公平、効率と公平のトレード・オフ</p> <p>教科書 6章付論</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):外部性が引き起こす市場の非効率性と公共政策 内 容:外部性、外部性の内部化、指導・監督政策:規制、</p> <p>教科書 7章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):外部性に対する市場重視政策と当事者間による解決法 内 容:矯正税と補助、排出権取引、コースの定理</p> <p>教科書 7章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):小テストを実施し、理解の確認をする。 内 容:第1回～第15回の講義(マイクロパート)の復習</p>
	<p>マクロパート</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(1) 内 容:マクロ経済パートのイントロダクション</p> <p>教科書 8章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(2) 内 容:GDPの測定</p> <p>教科書 8章</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(3) 内 容:名目GDPと実質GDPの違い</p> <p>教科書 8章</p>

第20回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 物価水準の変動について(1)</p> <p>内 容 : GDP デフレーターと消費者物価指数</p> <p>教科書 9章</p>
第21回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 物価水準の変動について(2)</p> <p>内 容 : インフレーションの影響に対する経済変数の補正</p> <p>教科書 9章</p>
第22回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 国家間における生活水準の大きな違いの原因(1)</p> <p>内 容 : 生産性の役割</p> <p>教科書 10章</p>
第23回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 国家間における生活水準の大きな違いの原因(2)</p> <p>内 容 : 生産性を決定する諸要因</p> <p>教科書 10章</p>
第24回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 失業問題について</p> <p>内 容 : 失業率の測定、失業の諸要因</p> <p>教科書 10章 (付論)</p>
第25回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 貯蓄、投資と金融システムについて(1)</p> <p>内 容 : 金融システムを構成する各種制度</p> <p>教科書 11章</p>
第26回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 貯蓄、投資と金融システムについて(2)</p> <p>内 容 : 貯蓄と投資の関係</p> <p>教科書 11章</p>
第27回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 貯蓄、投資と金融システムについて(3)</p> <p>内 容 : 金融市場における資金の需給均衡</p> <p>教科書 11章</p>
第28回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 開放マクロ経済学の基礎概念について(1)</p> <p>内 容 : 財と資本の国際フロー</p> <p>教科書 13章</p>
第29回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 開放マクロ経済学の基礎概念について(2)</p> <p>内 容 : 為替相場</p> <p>教科書 13章</p>
第30回	<p>テーマ (何を学ぶか) : まとめ</p> <p>内 容 : マクロパート第17回～第29回までのまとめと理解の確認</p>
定期試験	<p>期末筆記試験を行う</p>